

かきの適期管理の実践による安定生産

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

高島市今津町は、大正から続く歴史がある県下最大のかき産地です。しかし、台風被害やカメムシ被害により、平成 29 年度、平成 30 年度と JA を通じた市場出荷量が著しく減少しており、不安定な生産が続いています。

そこで当センターでは、JA 今津町柿部会員を対象に、病虫害の迅速な対応やポイントとなる作業への呼びかけ、売れるかきを目指した研修会の開催などにより安定した生産ができるよう支援を行いました。

【普及活動の内容】

ポイントとなる作業である摘らい、摘果、せん定についての研修会を開催しました。せん定研修では、柿部会員のは場で実演を交えながら行いました。また、売れるかきを作ることを目指して袋かけの研修も行いました。

カメムシ対策については、生態や防除方法の研修会を実施し、部会員と話し合いながら発生予察の場所を新たに設置し、部会員が自ら見回る体制を整えました。



写真1 カメムシの発生予察について協議

【普及活動の成果】

研修会および季節ごとの栽培管理情報紙の配布などにより基本技術の習得を図ることができました。特にせん定研修については、25名の農家が参加され、熱心に意見交換を行う様子が見られました。現地での研修により技術向上意欲が増しました。カメムシ対策については、適宜情報提供や研修会を通じて、フェロモントラップによる発生予察を農家自ら行う体制ができるなど、自分たちで対処しようという姿勢が見えるようになりました。来年度は一斉防除も考えたいという意見もあがるようになりました。



写真2 せん定研修会

今後も農家が自身でカメムシ対策を行っていけるよう引き続きカメムシの発生予察を行い、薬剤の選定や散布のタイミングを支援する予定です。

◎対象者の意見

裏年で出荷量は少なかったが、カメムシの発生予察など若い担い手を中心となって調査することで、自らやっていく意欲を高めることができた（生産者）。